

(様式1)

平成23年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 048	提案機関名 農業技術センター三浦半島地区事務所
要望問題名 風よけ麦のバンカープランツ利用について	
要望問題の内容 【 背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等） 】 三浦半島地域は、冬のダイコン・キャベツ、夏のスイカ、カボチャ、メロン、トウガンなどを中心に生産する県内最大の野菜生産地帯である。 予てより環境保全型農業に対する関心が高く、エコファーマーは80名を数え、その数は県下の45.7%を占めている。さらなる減農薬の取り組みを進めるために、スイカ等の夏作において風よけ用の麦をバンカープランツとしての利用した場合のアブラムシ、アザミウマ等の防除効果について検証し、環境保全型農業の導入技術の充実を図る。 三浦市、横須賀市、葉山町 (ダイコン805ha、キャベツ1124ha、スイカ417ha、カボチャ193ha)	
解決希望年限	①1年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内
対応を希望する研究機関名	<input checked="" type="checkbox"/> ①農業技術センター ②畜産技術所 ③水産技術センター ④自然環境保全センター
備 考	

回答機関名 農業技術センター	担当部署 三浦半島地区事務所 農業環境研究部
対応区分	①実施 ②実施中 ③継続検討 ④実施済 <input checked="" type="checkbox"/> ⑤調査指導対応 ⑥現地対応 ⑦実施不可
試験研究課題名 (①、②、④の場合)	
対応の内容等 これまでイネ科バンカープランツの利用については露地ナスや施設イチゴ等で検討が行われてきました。ムギについてはムギクビレアブラムシとの組み合わせでアブラムシ類に対する効果は確認されていますが、その他の微小害虫(特にアザミウマ類)についてはバンカープランツとして効果的に利用できた事例は少なく、害虫防除全体を考えれば現場普及にうつせるような防除効果のある方法ではないと思われます。また、露地ナスの事例等を勘案しても効果的な害虫対策をするためには数種類のバンカープランツを用いて、スイカにおける詳細な天敵等の調査を行う必要があると考えられます。まずは現地で風よけとして利用されているほ場の害虫発生状況について情報を収集していただき、薬剤の使用等の対応についてアドバイスしたいと考えます。	
解決予定年限	①1年以内 ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内
備 考	